

BIM/CIM適用業務【測量業務】 入札公告、入札説明書、特記仕様書（記載例）**発注者指定型の場合****【入札公告】**

「1 業務概要」に以下を記載する。

（番号）本業務は、BIM/CIM 適用業務（発注者指定型）である。

【入札説明書（業務説明書）】

「（番号）業務の実施形態」に以下を記載する。

（番号）本業務は、BIM/CIM 適用業務（発注者指定型）である。詳細については、特記仕様書による。

【特記仕様書】**第〇〇条 BIM/CIM 適用業務について**

本業務は、BIM/CIM 適用業務（発注者指定型）である。

以下に示す活用内容について、3次元モデルを作成し活用する。

詳細については、受発注者間で協議し、以下の1～4により実施する。

なお、受注者が希望する場合、発注者が示す活用内容以外の活用内容を提案することができる。

（例）

活用内容	活用内容の詳細
〔推奨項目〕【発注者が必要とする場合のみ記載する】	
洪水時の視覚化による浸水面の確認	3D洪水ハザードマップ（洪水時の浸水面を3次元で表現すること）により浸水リスクの視覚化を図る。

1 BIM/CIM 実施計画書の作成

3次元モデルの活用について、以下1）～5）の内容について受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施計画書を作成する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。

また、作成した BIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本業務を実施する。

- 1）3次元モデルの活用内容（実施内容、期待する効果等）
- 2）3次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された3次元モデルの使用等）
- 3）3次元モデル作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
- 4）3次元モデル作成担当者
- 5）3次元モデルの作成・活用に要する費用

2 BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づく3次元モデルの活用について、以下1）～5）の内容を記載した BIM/CIM 実施報告書を作成する。

- 1) 3次元モデルの活用概要（実施概要、期待する効果の結果等、期待した効果が十分に得られなかった場合の考察を含む）
 - 2) 作成・活用した3次元モデル（作成範囲、詳細度、属性情報、基準点の情報等）
 - 3) 後段階への引継事項（対応する無償ビューワーの種類、2次元図面との整合に関する情報、活用時の注意点等）
 - 4) 成果物
 - 5) その他（創意工夫内容、基準要領に関する改善提案・意見・要望、ソフトウェアへの技術開発提案事項等）
- 3 成果の納品
- BIM/CIM 実施計画書（変更含む）、BIM/CIM 実施報告書及び作成した3次元モデルを納品する。
- 4 BIM/CIM 適用の費用について
- BIM/CIM 適用に要する費用については、当初は計上していない。受注者が BIM/CIM 実施計画書（変更を含む）に基づいた見積書を発注者に提出し、発注者が実施内容と効果の把握、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

第〇条 DX データセンターの使用

本業務は、国土技術政策総合研究所が運用する DX データセンターを使用することで、VDI サーバーを経由した3次元モデルを取り扱う専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る業務である。

3次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、DX データセンターにインストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。なお、DX データセンター内の無償ソフトウェアを利用することで、3次元モデルの閲覧ができる。

DX データセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとし、有償ソフトウェアの使用料は設計変更の対象とする。

なお、DX データセンターの詳細については、DX データセンターの参考資料（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference>）及びポータルサイト（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym>）を参照すること。

BIM/CIM適用業務【測量業務】 入札公告、入札説明書、特記仕様書（記載例）

受注者希望型の場合

【入札公告】

「1 業務概要」に以下を記載する。

（番号）本業務は、BIM/CIM 適用業務（受注者希望型）である。

【入札説明書（業務説明書）】

「（番号）業務の実施形態」に以下を記載する。

（番号）本業務は、BIM/CIM 適用業務（受注者希望型）である。詳細については、特記仕様書による。

【特記仕様書】

第〇〇条 BIM/CIM 適用業務について

本業務は、BIM/CIM 適用業務（受注者希望型）である。

契約後において、受注者から 3 次元モデルの活用希望があった場合、3 次元モデルの活用を行うことができる。

詳細については、受発注者間で協議し、以下の 1～4 により実施する。

1 BIM/CIM 実施計画書の作成

3 次元モデルの活用について、以下 1)～5) の内容について受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施計画書を作成する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。

また、作成した BIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本業務を実施する。

- 1) 3 次元モデルの活用内容（実施内容、期待する効果等）
- 2) 3 次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された 3 次元モデルの使用等）
- 3) 3 次元モデル作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
- 4) 3 次元モデル作成担当者
- 5) 3 次元モデルの作成・活用に要する費用

2 BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づく 3 次元モデルの活用について、以下 1)～5) の内容を記載した BIM/CIM 実施報告書を作成する。

- 1) 3 次元モデルの活用概要（実施概要、期待する効果の結果等、期待した効果が十分に得られなかった場合の考察を含む）
- 2) 作成・活用した 3 次元モデル（作成範囲、詳細度、属性情報、基準点の情報等）
- 3) 後段階への引継事項（対応する無償ビューワーの種類、2 次元図面との整合に関する情報、活用時の注意点等）
- 4) 成果物

- 5) その他（創意工夫内容、基準要領に関する改善提案・意見・要望、ソフトウェアへの技術開発提案事項等）
- 3 成果の納品
- BIM/CIM 実施計画書（変更含む）、BIM/CIM 実施報告書及び作成した 3 次元モデルを納品する。
- 4 BIM/CIM 適用の費用について
- BIM/CIM 適用に要する費用については、当初は計上していない。受注者が BIM/CIM 実施計画書（変更を含む）に基づいた見積書を発注者に提出し、発注者が実施内容と効果の把握、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

第〇条 DX データセンターの使用

本業務は、国土技術政策総合研究所が運用する DX データセンターを使用することで、VDI サーバーを経由した 3 次元モデルを取り扱う専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る業務である。

3 次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、DX データセンターにインストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。なお、DX データセンター内の無償ソフトウェアを利用することで、3 次元モデルの閲覧ができる。

DX データセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとし、有償ソフトウェアの使用料は設計変更の対象とする。

なお、DX データセンターの詳細については、DX データセンターの参考資料（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference>）及びポータルサイト（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym>）を参照すること。

BIM/CIM適用業務【地質・土質調査】 入札公告、入札説明書、特記仕様書(記載例)

発注者指定型の場合

【入札公告】

「1 業務概要」に以下を記載する。

(番号) 本業務は、BIM/CIM 適用業務（発注者指定型）である。

【入札説明書（業務説明書）】

「(番号) 業務の実施形態」に以下を記載する。

(番号) 本業務は、BIM/CIM 適用業務（発注者指定型）である。詳細については、特記仕様書による。

【特記仕様書】

第〇〇条 BIM/CIM 適用業務について

本業務は、BIM/CIM 適用業務（発注者指定型）である。

以下に示す活用内容について、3次元モデルを作成し活用する。

詳細については、受発注者間で協議し、以下の1～4により実施する。

なお、受注者が希望する場合、発注者が示す活用内容以外の活用内容を提案することができる。

(例)

活用内容	活用内容の詳細
〔推奨項目〕【※発注者が活用内容を明確にして、下記項目から抜粋して記載する】	
3次元地質モデルによる視覚化 及び後工程での3次元地質モデルの活用 【トンネルの場合】	トンネル施工箇所の地質・土質上の現状と課題を把握するため、3次元地質モデルを作成する。 また、作成した3次元地質モデルは、後工程の設計、施工での活用を予定している。
3次元地質モデルによる視覚化 及び後工程での3次元地質モデルの活用 【地下構造物の場合】	地下構造物施工箇所の地質・土質上の現状と課題を把握するため、3次元地質モデルを作成する。 また、作成した3次元地質モデルは、後工程の設計、施工での活用を予定している。
3次元地質モデルによる視覚化 及び後工程での3次元地質モデルの活用 【法面防災、大規模切土の場合】	法面防災【大規模切土】施工箇所の地質・土質上の現状と課題を把握するため、3次元地質モデルを作成する。 また、作成した3次元地質モデルは、後工程の設計、施工での活用を予定している。
3次元地質モデルによる視覚化 及び後工程での3次元地質モデルの活用 【大規模調節池事業】	調節池事業箇所の複数の地質断面図を3次元空間に配置して視覚化を図るため、3次元地質モデルを作成する。 また、作成した3次元地質モデルは、後工程の設計、

	施工での活用を予定している。
3次元地質モデルによる視覚化及び後工程での3次元地質モデルの活用 【砂防事業における地滑り検討】	地滑り機構解析に用いるため、3次元地質モデルを作成する。 また、作成した3次元地質モデルは、後工程の設計、施工での活用を予定している。

1 BIM/CIM 実施計画書の作成

3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容について受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施計画書を作成する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。

また、作成した BIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本業務を実施する。

- 1) 3次元モデルの活用内容（実施内容、期待する効果等）
- 2) 3次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された3次元モデルの使用等）
- 3) 3次元モデル作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
- 4) 3次元モデル作成担当者
- 5) 3次元モデルの作成・活用に要する費用

2 BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づく3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容を記載した BIM/CIM 実施報告書を作成する。

- 1) 3次元モデルの活用概要（実施概要、期待する効果の結果等、期待した効果が十分に得られなかった場合の考察を含む）
- 2) 作成・活用した3次元モデル（作成範囲、詳細度、属性情報、基準点の情報等）
- 3) 後段階への引継事項（対応する無償ビューワーの種類、2次元図面との整合に関する情報、活用時の注意点等）
- 4) 成果物
- 5) その他（創意工夫内容、基準要領に関する改善提案・意見・要望、ソフトウェアへの技術開発提案事項等）

3 成果の納品

BIM/CIM 実施計画書（変更含む）、BIM/CIM 実施報告書及び作成した3次元モデルを納品する。

4 BIM/CIM 適用の費用について

BIM/CIM 適用に要する費用については、当初は計上していない。受注者が BIM/CIM 実施計画書（変更を含む）に基づいた見積書を発注者に提出し、発注者が実施内容と効果の把握、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

第〇条 DX データセンターの使用

本業務は、国土技術政策総合研究所が運用する DX データセンターを使用することで、VDI サーバーを経由した3次元モデルを取り扱う専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る業務である。

3次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、DX データセンターにイ

インストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。なお、DX データセンター内の無償ソフトウェアを利用することで、3次元モデルの閲覧ができる。

DX データセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとし、有償ソフトウェアの使用料は設計変更の対象とする。

なお、DX データセンターの詳細については、DX データセンターの参考資料（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference>）及びポータルサイト（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym>）を参照すること。

BIM/CIM適用業務【地質・土質調査】 入札公告、入札説明書、特記仕様書(記載例)

受注者希望型の場合

【入札公告】

「1 業務概要」に以下を記載する。

(番号) 本業務は、BIM/CIM 適用業務（受注者希望型）である。

【入札説明書（業務説明書）】

「(番号) 業務の実施形態」に以下を記載する。

(番号) 本業務は、BIM/CIM 適用業務（受注者希望型）である。詳細については、特記仕様書による。

【特記仕様書】

第〇〇条 BIM/CIM 適用業務について

本業務は、BIM/CIM 適用業務（受注者希望型）である。

契約後において、受注者から3次元モデルの活用希望があった場合、3次元モデルの活用を行うことができる。

詳細については、受発注者間で協議し、以下の1～4により実施する。

1 BIM/CIM 実施計画書の作成

3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容について受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施計画書を作成する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。

また、作成したBIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本業務を実施する。

- 1) 3次元モデルの活用内容（実施内容、期待する効果等）
- 2) 3次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された3次元モデルの使用等）
- 3) 3次元モデル作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
- 4) 3次元モデル作成担当者
- 5) 3次元モデルの作成・活用に要する費用

2 BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づく3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容を記載したBIM/CIM 実施報告書を作成する。

- 1) 3次元モデルの活用概要（実施概要、期待する効果の結果等、期待した効果が十分に得られなかった場合の考察を含む）
- 2) 作成・活用した3次元モデル（作成範囲、詳細度、属性情報、基準点の情報等）
- 3) 後段階への引継事項（対応する無償ビューワーの種類、2次元図面との整合に関する情報、活用時の注意点等）
- 4) 成果物

- 5) その他（創意工夫内容、基準要領に関する改善提案・意見・要望、ソフトウェアへの技術開発提案事項等）
- 3 成果の納品
- BIM/CIM 実施計画書（変更含む）、BIM/CIM 実施報告書及び作成した 3 次元モデルを納品する。
- 4 BIM/CIM 適用の費用について
- BIM/CIM 適用に要する費用については、当初は計上していない。受注者が BIM/CIM 実施計画書（変更を含む）に基づいた見積書を発注者に提出し、発注者が実施内容と効果の把握、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

第〇条 DX データセンターの使用

本業務は、国土技術政策総合研究所が運用する DX データセンターを使用することで、VDI サーバーを経由した 3 次元モデルを取り扱う専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る業務である。

3 次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、DX データセンターにインストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。なお、DX データセンター内の無償ソフトウェアを利用することで、3 次元モデルの閲覧ができる。

DX データセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとし、有償ソフトウェアの使用料は設計変更の対象とする。

なお、DX データセンターの詳細については、DX データセンターの参考資料（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference>）及びポータルサイト（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym>）を参照すること。

BIM/CIM適用業務【概略・予備設計】 入札公告、入札説明書、特記仕様書(記載例)

発注者指定型の場合

【入札公告】

「1 業務概要」に以下を記載する。

(番号) 本業務は、BIM/CIM 適用業務（発注者指定型）である。

【入札説明書（業務説明書）】

「(番号) 業務の実施形態」に以下を記載する。

(番号) 本業務は、BIM/CIM 適用業務（発注者指定型）である。詳細については、特記仕様書による。

【特記仕様書】

第〇〇条 BIM/CIM 適用業務について

本業務は、BIM/CIM 適用業務（発注者指定型）である。

以下に示す活用内容について、3次元モデルを作成し活用する。

詳細については、受発注者間で協議し、以下の1～4により実施する。

なお、受注者が希望する場合、発注者が示す活用内容以外の活用内容を提案することができる。

(例)

活用内容	活用内容の詳細
〔推奨項目〕【※発注者が活用内容を明確にして、下記項目から抜粋して記載する】	
施工ステップの確認	一連の施工工程のステップごとの3次元モデルで施工可能かどうかを確認する。
輻輳する箇所の建築限界の確認	3次元モデルにより、交差する道路、歩道、高架橋桁下との建築限界確認を行う。
事業計画の検討	3次元モデルで複数の設計案を作成し、最適な事業計画を検討する。
〔3次元モデル作成の目安〕	
詳細度	200～300程度 ^{※1} 3次元化の内容に応じて、部分的に詳細度400とする場合がある。 ※1 構造形式がわかるモデル～主構造の形状がわかるモデル
属性情報 ^{※2}	オブジェクト分類名 ^{※3} のみ入力し、その他は任意とする。 ※2 部材等の名称、規格、仕様等の情報 ※3 道路土構造物、橋梁等の分類の名称

1 BIM/CIM 実施計画書の作成

3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容について受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施計画書を作成する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、

BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。

また、作成した BIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本業務を実施する。

- 1） 3次元モデルの活用内容（実施内容、期待する効果等）
- 2） 3次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された3次元モデルの使用等）
- 3） 3次元モデル作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
- 4） 3次元モデル作成担当者
- 5） 3次元モデルの作成・活用に要する費用

2 BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づく3次元モデルの活用について、以下1）～5）の内容を記載した BIM/CIM 実施報告書を作成する。

- 1） 3次元モデルの活用概要（実施概要、期待する効果の結果等、期待した効果が十分に得られなかった場合の考察を含む）
- 2） 作成・活用した3次元モデル（作成範囲、詳細度、属性情報、基準点の情報等）
- 3） 後段階への引継事項（対応する無償ビューワーの種類、2次元図面との整合に関する情報、活用時の注意点等）
- 4） 成果物
- 5） その他（創意工夫内容、基準要領に関する改善提案・意見・要望、ソフトウェアへの技術開発提案事項等）

3 成果の納品

BIM/CIM 実施計画書（変更含む）、BIM/CIM 実施報告書及び作成した3次元モデルを納品する。

4 BIM/CIM 適用の費用について

BIM/CIM 適用に要する費用については、当初は計上していない。受注者が BIM/CIM 実施計画書（変更を含む）に基づいた見積書を発注者に提出し、発注者が実施内容と効果の把握、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

第〇条 DX データセンターの使用

本業務は、国土技術政策総合研究所が運用する DX データセンターを使用することで、VDI サーバーを経由した3次元モデルを取り扱う専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る業務である。

3次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、DX データセンターにインストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。なお、DX データセンター内の無償ソフトウェアを利用することで、3次元モデルの閲覧ができる。

DX データセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとし、有償ソフトウェアの使用料は設計変更の対象とする。

なお、DX データセンターの詳細については、DX データセンターの参考資料（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference>）及びポータルサイト（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym>）を参照すること。

BIM/CIM適用業務【概略・予備設計】 入札公告、入札説明書、特記仕様書(記載例)

受注者希望型の場合

【入札公告】

「1 業務概要」に以下を記載する。

(番号) 本業務は、BIM/CIM 適用業務（受注者希望型）である。

【入札説明書（業務説明書）】

「(番号) 業務の実施形態」に以下を記載する。

(番号) 本業務は、BIM/CIM 適用業務（受注者希望型）である。詳細については、特記仕様書による。

【特記仕様書】

第〇〇条 BIM/CIM 適用業務について

本業務は、BIM/CIM 適用業務（受注者希望型）である。

契約後において、受注者から3次元モデルの活用希望があった場合、3次元モデルの活用を行うことができる。詳細については、受発注者間で協議し、以下の1～4により実施する。

1 BIM/CIM 実施計画書の作成

3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容について受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施計画書を作成する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。

また、作成したBIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本業務を実施する。

- 1) 3次元モデルの活用内容（実施内容、期待する効果等）
- 2) 3次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された3次元モデルの使用等）
- 3) 3次元モデル作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
- 4) 3次元モデル作成担当者
- 5) 3次元モデルの作成・活用に要する費用

2 BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づく3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容を記載したBIM/CIM 実施報告書を作成する。

- 1) 3次元モデルの活用概要（実施概要、期待する効果の結果等、期待した効果が十分に得られなかった場合の考察を含む）
- 2) 作成・活用した3次元モデル（作成範囲、詳細度、属性情報、基準点の情報等）
- 3) 後段階への引継事項（対応する無償ビューワーの種類、2次元図面との整合に関する情報、活用時の注意点等）
- 4) 成果物

- 5) その他（創意工夫内容、基準要領に関する改善提案・意見・要望、ソフトウェアへの技術開発提案事項等）
- 3 成果の納品
- BIM/CIM 実施計画書（変更含む）、BIM/CIM 実施報告書及び作成した 3 次元モデルを納品する。
- 4 BIM/CIM 適用の費用について
- BIM/CIM 適用に要する費用については、当初は計上していない。受注者が BIM/CIM 実施計画書（変更を含む）に基づいた見積書を発注者に提出し、発注者が実施内容と効果の把握、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

第〇条 DX データセンターの使用

本業務は、国土技術政策総合研究所が運用する DX データセンターを使用することで、VDI サーバーを経由した 3 次元モデルを取り扱う専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る業務である。

3 次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、DX データセンターにインストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。なお、DX データセンター内の無償ソフトウェアを利用することで、3 次元モデルの閲覧ができる。

DX データセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとし、有償ソフトウェアの使用料は設計変更の対象とする。

なお、DX データセンターの詳細については、DX データセンターの参考資料（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference>）及びポータルサイト（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym>）を参照すること。

BIM/CIM適用業務【詳細設計】 入札公告、入札説明書、特記仕様書（記載例）

発注者指定型の場合

【入札公告】

「1 業務概要」に以下を記載する。

（番号）本業務は、BIM/CIM 適用業務（発注者指定型）である。

【入札説明書（業務説明書）】

「（番号）業務の実施形態」に以下を記載する。

（番号）本業務は、BIM/CIM 適用業務（発注者指定型）である。詳細については、特記仕様書による。

【特記仕様書】

第〇〇条 BIM/CIM 適用業務について

本業務は、BIM/CIM 適用業務（発注者指定型）である。

以下に示す活用内容について、3次元モデルを作成し活用する。

詳細については、受発注者間で協議し、以下の1～4により実施する。

なお、受注者が希望する場合、発注者が示す活用内容以外の活用内容を提案することができる。

（例）

活用内容	活用内容の詳細
〔義務項目〕【※詳細設計は義務項目の適用となるため記載すること】	
特定部の確認 （2次元図面の確認補助）	2次元では表現が難しい箇所を3次元モデルで視覚化することで、関係者の理解促進や2次元図面の精度向上を図る。 【義務項目(例)一覧から必要項目を抜粋】 ・本業務では、既設構造物、地下埋設物との干渉を確認する。 ・本業務では、橋梁の上部工と下部工の接続部分を確認する。 ・本業務では、道路本体（土工部（トンネル部含む）、橋梁部）の施工にあたり支障となる障害物を確認する。
出来上がり全体イメージの確認	出来上がりの完成形状を3次元モデルで視覚化することで、【住民説明、関係者協議、景観検討】で全体イメージの共有を図る。
〔推奨項目〕【※発注者が活用内容を明確にして、下記項目から抜粋して記載する】	
施工ステップの確認	一連の施工工程のステップごとの3次元モデルで施工可能かどうかを確認する。

輻輳する箇所の建築限界の確認	3次元モデルにより、交差する道路、歩道、高架橋桁下との建築限界確認を行う。
事業計画の検討	3次元モデルで複数の設計案を作成し、最適な事業計画を検討する。
〔3次元モデル作成の目安〕	
詳細度	200～300程度 ^{※1} 3次元化の目的に応じて、部分的に詳細度400とする場合がある。 ※1 構造形式がわかるモデル～主構造の形状がわかるモデル
属性情報 ^{※2}	オブジェクト分類名 ^{※3} のみ入力し、その他は任意とする。 ※2 部材等の名称、規格、仕様等の情報 ※3 道路土構造物、橋梁等の分類の名称

1 BIM/CIM 実施計画書の作成

3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容について受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施計画書を作成する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。

また、作成した BIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本業務を実施する。

- 1) 3次元モデルの活用内容（実施内容、期待する効果等）
- 2) 3次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された3次元モデルの使用等）
- 3) 3次元モデル作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
- 4) 3次元モデル作成担当者
- 5) 3次元モデルの作成・活用に要する費用

2 BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づく3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容を記載した BIM/CIM 実施報告書を作成する。

- 1) 3次元モデルの活用概要（実施概要、期待する効果の結果等、期待した効果が十分に得られなかった場合の考察を含む）
- 2) 作成・活用した3次元モデル（作成範囲、詳細度、属性情報、基準点の情報等）
- 3) 後段階への引継事項（対応する無償ビューワーの種類、2次元図面との整合に関する情報、活用時の注意点等）
- 4) 成果物
- 5) その他（創意工夫内容、基準要領に関する改善提案・意見・要望、ソフトウェアへの技術開発提案事項等）

3 成果の納品

BIM/CIM 実施計画書（変更含む）、BIM/CIM 実施報告書及び作成した3次元モデルを納品する。

4 BIM/CIM 適用の費用について

BIM/CIM 適用に要する費用については、当初は計上していない。受注者が BIM/CIM 実施計画書（変更を含む）に基づいた見積書を発注者に提出し、発注者が実施内容と効果の把握、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

第〇条 DX データセンターの使用

本業務は、国土技術政策総合研究所が運用する DX データセンターを使用することで、VDI サーバーを経由した 3 次元モデルを取り扱う専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る業務である。

3 次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、DX データセンターにインストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。なお、DX データセンター内の無償ソフトウェアを利用することで、3 次元モデルの閲覧ができる。

DX データセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとし、有償ソフトウェアの使用料は設計変更の対象とする。

なお、DX データセンターの詳細については、DX データセンターの参考資料（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference>）及びポータルサイト（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym>）を参照すること。

BIM/CIM適用業務【詳細設計】 入札公告、入札説明書、特記仕様書（記載例）

受注者希望型の場合

【入札公告】

「1 業務概要」に以下を記載する。

（番号）本業務は、BIM/CIM 適用業務（受注者希望型）である。

【入札説明書（業務説明書）】

「（番号）業務の実施形態」に以下を記載する。

（番号）本業務は、BIM/CIM 適用業務（受注者希望型）である。詳細については、特記仕様書による。

【特記仕様書】

第〇〇条 BIM/CIM 適用業務について

本業務は、BIM/CIM 適用業務（受注者希望型）である。

契約後において、受注者から3次元モデルの活用希望があった場合、3次元モデルの活用を行うことができる。詳細については、受発注者間で協議し、以下の1～4により実施する。

1 BIM/CIM 実施計画書の作成

3次元モデルの活用について、以下1）～5）の内容について受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施計画書を作成する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。

また、作成したBIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本業務を実施する。

- 1）3次元モデルの活用内容（実施内容、期待する効果等）
- 2）3次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された3次元モデルの使用等）
- 3）3次元モデル作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
- 4）3次元モデル作成担当者
- 5）3次元モデルの作成・活用に要する費用

2 BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づく3次元モデルの活用について、以下1）～5）の内容を記載したBIM/CIM 実施報告書を作成する。

- 1）3次元モデルの活用概要（実施概要、期待する効果の結果等、期待した効果が十分に得られなかった場合の考察を含む）
- 2）作成・活用した3次元モデル（作成範囲、詳細度、属性情報、基準点の情報等）
- 3）後段階への引継事項（対応する無償ビューワーの種類、2次元図面との整合に関する情報、活用時の注意点等）
- 4）成果物

- 5) その他（創意工夫内容、基準要領に関する改善提案・意見・要望、ソフトウェアへの技術開発提案事項等）
- 3 成果の納品
- BIM/CIM 実施計画書（変更含む）、BIM/CIM 実施報告書及び作成した 3 次元モデルを納品する。
- 4 BIM/CIM 適用の費用について
- BIM/CIM 適用に要する費用については、当初は計上していない。受注者が BIM/CIM 実施計画書（変更を含む）に基づいた見積書を発注者に提出し、発注者が実施内容と効果の把握、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

第〇条 DX データセンターの使用

本業務は、国土技術政策総合研究所が運用する DX データセンターを使用することで、VDI サーバーを経由した 3 次元モデルを取り扱う専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る業務である。

3 次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、DX データセンターにインストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。なお、DX データセンター内の無償ソフトウェアを利用することで、3 次元モデルの閲覧ができる。

DX データセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとし、有償ソフトウェアの使用料は設計変更の対象とする。

なお、DX データセンターの詳細については、DX データセンターの参考資料（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference>）及びポータルサイト（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym>）を参照すること。

BIM/CIM適用工事 入札公告、入札説明書、特記仕様書（記載例）

発注者指定型の場合

【入札公告】

「1 工事概要」に以下を記載する。

（番号）本工事は、BIM/CIM 適用工事（発注者指定型）である。

【入札説明書】

「（番号）工事概要」に以下を記載する。

（番号）本工事は、BIM/CIM 適用工事（発注者指定型）である。詳細については、特記仕様書による。

【特記仕様書】

第〇〇条 BIM/CIM 適用工事について

本工事は、BIM/CIM 適用工事（発注者指定型）である。

以下に示す活用内容について、3次元モデルを作成し活用する。

詳細については、受発注者間で協議し、以下の1～4により実施する。

なお、受注者が希望する場合、発注者が示す活用内容以外の活用内容を提案することができる。

（例）

活用内容	活用内容の詳細
〔義務項目〕【※設計段階の3次元モデルがある場合は、必ず記載すること】	
施工計画の検討補助	詳細設計等で作成された3次元モデルを閲覧し、施工計画を検討する際の参考にする。
2次元図面の理解補助	詳細設計等で作成された3次元モデルを閲覧し、2次元図面を理解する際の参考にする。
現場作業員等への説明	詳細設計で作成された3次元モデルを用いて、現場作業員等に工事の完成イメージ等を説明し、現場作業員等の理解促進を図る。
〔推奨項目〕【※発注者が活用内容を明確にし、下記項目から抜粋して記載する】	
施工ステップの確認	3次元モデルの視覚化効果により、現場が輻輳する場合に一連の施工ステップを確認する。
出来形管理への活用	省力化、省人化を図るため、3次元モデルとレーザー測量等を組み合わせて、構造物の出来形計測を行う。
鉄筋の干渉チェック	過密配筋部や構造物の接合部、橋梁の沓座部等について、3次元モデルで鉄筋の干渉を確認する。
現場条件の確認	3次元モデルに重機等を配置して、既設地下埋設物や近接構造物との離隔等、施工に支障がないかを確認する。

	認する。
〔3次元モデル作成の目安〕	
詳細度	200～300程度 ^{※1} 3次元化の内容に応じて、部分的に詳細度400とする場合がある。 ※1 構造形式がわかるモデル～主構造の形状がわかるモデル
属性情報 ^{※2}	オブジェクト分類名 ^{※3} のみ入力し、その他は任意とする。 ※2 部材等の名称、規格、仕様等の情報 ※3 道路土構造物、橋梁等の分類の名称

1 BIM/CIM 実施計画書の作成

3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容について受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施計画書を作成する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。

また、作成した BIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本業務を実施する。

- 1) 3次元モデルの活用内容（実施内容、期待する効果等）
- 2) 3次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された3次元モデルの使用等）
- 3) 3次元モデル作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
- 4) 3次元モデル作成担当者
- 5) 3次元モデルの作成・活用に要する費用

2 BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づく3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容を記載した BIM/CIM 実施報告書を作成する。

- 1) 3次元モデルの活用概要（実施概要、期待する効果の結果等、期待した効果が十分に得られなかった場合の考察を含む）
- 2) 作成・活用した3次元モデル（作成範囲、詳細度、属性情報、基準点の情報等）
- 3) 後段階への引継事項（対応する無償ビューワーの種類、2次元図面との整合に関する情報、活用時の注意点等）
- 4) 成果物
- 5) その他（創意工夫内容、基準要領に関する改善提案・意見・要望、ソフトウェアへの技術開発提案事項等）

3 成果の納品

BIM/CIM 実施計画書（変更含む）、BIM/CIM 実施報告書及び作成した3次元モデルを納品する。

4 BIM/CIM 適用の費用について

BIM/CIM 適用に要する費用については、当初は計上していない。受注者が BIM/CIM 実施計画書（変更を含む）に基づいた見積書を発注者に提出し、発注者が実施内容と効果の把握、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

なお、義務項目は3次元モデルの閲覧（3次元モデルの作成・加工は含まない）による活用となるため、費用は計上しない。

第〇条 DX データセンターの使用

本工事は、国土技術政策総合研究所が運用する DX データセンターを使用することで、VDI サーバーを経由した 3 次元モデルを取り扱う専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る業務である。

3 次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、DX データセンターにインストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。なお、DX データセンター内の無償ソフトウェアを利用することで、3 次元モデルの閲覧ができる。

DX データセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとし、有償ソフトウェアの使用料は設計変更の対象とする。

なお、DX データセンターの詳細については、DX データセンターの参考資料（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference>）及びポータルサイト（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym>）を参照すること。

BIM/CIM適用工事 入札公告、入札説明書、特記仕様書（記載例）

受注者希望型の場合

【入札公告】

「1 工事概要」に以下を記載する。

（番号）本工事は、BIM/CIM 適用工事（受注者希望型）である。

【入札説明書】

「（番号）工事概要」に以下を記載する。

（番号）本工事は、BIM/CIM 適用工事（受注者希望型）である。詳細については、特記仕様書による。

【特記仕様書】

第〇〇条 BIM/CIM 適用工事について

本工事は、BIM/CIM 適用工事（受注者希望型）である。

契約後において、受注者から3次元モデルの活用希望があった場合、3次元モデルの活用を行うことができる。詳細については、受発注者間で協議し、以下の1～4により実施する。

1 BIM/CIM 実施計画書の作成

3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容について受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施計画書を作成する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。

また、作成したBIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本業務を実施する。

- 1) 3次元モデルの活用内容（実施内容、期待する効果等）
- 2) 3次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された3次元モデルの使用等）
- 3) 3次元モデル作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
- 4) 3次元モデル作成担当者
- 5) 3次元モデルの作成・活用に要する費用

2 BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づく3次元モデルの活用について、以下1)～5)の内容を記載したBIM/CIM 実施報告書を作成する。

- 1) 3次元モデルの活用概要（実施概要、期待する効果の結果等、期待した効果が十分に得られなかった場合の考察を含む）
- 2) 作成・活用した3次元モデル（作成範囲、詳細度、属性情報、基準点の情報等）
- 3) 後段階への引継事項（対応する無償ビューワーの種類、2次元図面との整合に関する情報、活用時の注意点等）
- 4) 成果物

- 5) その他（創意工夫内容、基準要領に関する改善提案・意見・要望、ソフトウェアへの技術開発提案事項等）
- 3 成果の納品
- BIM/CIM 実施計画書（変更含む）、BIM/CIM 実施報告書及び作成した 3 次元モデルを納品する。
- 4 BIM/CIM 適用の費用について
- BIM/CIM 適用に要する費用については、当初は計上していない。受注者が BIM/CIM 実施計画書（変更を含む）に基づいた見積書を発注者に提出し、発注者が実施内容と効果の把握、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

第〇条 DX データセンターの使用

本工事は、国土技術政策総合研究所が運用する DX データセンターを使用することで、VDI サーバーを経由した 3 次元モデルを取り扱う専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る業務である。

3 次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、DX データセンターにインストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。なお、DX データセンター内の無償ソフトウェアを利用することで、3 次元モデルの閲覧ができる。

DX データセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとし、有償ソフトウェアの使用料は設計変更の対象とする。

なお、DX データセンターの詳細については、DX データセンターの参考資料（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference>）及びポータルサイト（<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym>）を参照すること。